

政策22 上・下水道、河川（ため池）の整備と運営

目標	浄水処理・水道水質監視システムを強化し、水質の安全確保を図ります。また、雨水排水施設の整備と併せ、地下水の涵養や河川への流出抑制等の総合的な浸水対策を図っていくとともに、環境負荷を低減するための水資源の有効活用を図ります。 河川・ため池については、その構造や周辺の土地利用状況等を勘案しながら、自然環境の保全を図ります。
----	---

基本方針	◎上水道については、量的・質的にも利用者に満足され、信頼できる水道供給体制を確立します。 ◎下水道については、生活環境の維持・改善と水質汚濁防止を図るため、污水管の整備を進め、汚水人口普及率100%をめざします。 ◎雨水管の整備や雨水貯留、浸透等多様な方法で、浸水被害の解消をめざすとともに、水資源の活用を図ります。 ◎河川については、貴重な水辺空間として自然環境の保全を図り、人々に親しまれるものにします。 ◎ため池については、ため池管理者の維持管理を促進するなどにより水辺環境を保全していきます。
------	--

考え方	政策の方向性	社会状況の変化
	箕面市市民満足度アンケートにおいては、重要度は中間層であり、満足度は高いため、市民ニーズ度はやや低くなっている。これは、上水道・下水道（水洗化）ともにほぼ100%整備されており、特に意識することがないためと考えられる。今後も、一層の歳出削減に努め、資源を「抑制」しつつ、生活環境の維持・改善と水質汚濁防止を図り、成果は引き続き「維持」していくものとする。	国際文化公園都市特定土地区画整理事業、水と緑の健康都市特定土地区画整理事業、小野原西特定土地区画整理事業に合わせた水道施設の整備が必要となっている。
		これまでの取り組み ・営業収支比率は、上水道・下水道ともに100%以上を維持した。 ・配水池耐震化は、平成16、17年度に青松園配水池の耐震化を完了し、整備率73.8%になった。 ・供用開始地区内の水洗化率は、平成17年度末で99.8%に達した。 ・雨水整備率は、平成17年度末で62.2%に達した。 ・下水道事業は、平成15年度から地方公営企業法の全部を適用した。 ・アドプト活動推進要綱や大阪府アドプトリバープログラムに基づき、河川に対するアドプト活動の受け皿は整い、アドプト活動団体が増加した。 ・浄水処理・水道水質監視システムの更新を行った。
課題		
・配水池等耐震施設診断結果、補修計画に基づき、計画的に水道施設の耐震化を行う必要がある。 ・市街地における幹線雨水管整備はほぼ完了したが、今後、計画を超える局地的な大雨への対応が課題である。 ・農業人口の減少と農業生産者の高齢化により、ため池用水の利用が低下し、ため池の維持管理が課題である。 ・河川・ため池への不法投棄が増加しており、不法投棄の防止に向けた対策が必要である。		

成果指標名		基準値	→	目標値
指標	営業収支比率（上水道）	100.0	%以上 →	101.7 %
根拠	公営企業分析指標の一つ。営業費用が営業収益によってどの程度賄われているかを示した指標で、100%を超えて比率が高いほど経営成績は良好といえる。中期財政見通し（平成17年度～平成22年度）による試算から、101.7%を目標とする。			
指標	営業収支比率（下水道）	100.0	%以上 →	120.9 %
根拠	公営企業分析指標の一つ。営業費用が営業収益によってどの程度賄われているかを示した指標で、100%を超えて比率が高いほど経営成績は良好といえる。平成16年4月の下水道使用料改定による試算から、120.9%を目標とする。			
指標	河川（ため池）、親水公園に関する満足度	8.9	% →	15.0 %
根拠	自然環境の保全や都市環境の向上のため、河川、ため池の水辺空間の整備を行うことから、箕面市市民満足度アンケートにおける満足度を指標とする。瀬川親水公園や千里川沿いのせせらぎ公園の利用、また、市民による清掃・美化などのアドプト活動の普及・啓発等により今後も市民が水に親しむ機会が増えると考えられ、15.0%を目標とする。			